

■選挙報告

この度実施いたしました、4月24日の市議会議員選挙にて、6831票をいただき、当選させていただきました。公職選挙法の関係により、お礼を申し上げることはできませんので報告のみいたします。

多くの皆様からご支持いただいた理由は、今までの政党による政治に対するNOの声が集まったからだと認識しております。

これから、皆様のご期待に沿えるよう、しがらみのない政治、市民全体のことを考えた政治、未来に責任を持った政治に取り組んでまいります。駅前での報告は今後も定期的に行います。

■枚方市の投票率について

今回2011年の投票率

当日有権者数: 32万4021人

投票者数: 14万7547人

投票率: 45.53%

前回2007年の投票率

当日有権者数: 32万554人

投票者数: 15万430人

投票率: 46.93%



木村亮太プロフィール

枚方小学校・バンコク日本人学校・枚方中学校・四條畷高校・大阪大学 / 民間企業を経て2011年より枚方市議会議員

twitter
ID: kimura_ryota



未来に責任

無所属 枚方市

「民間と比較して1.73倍もある
公務員給与是正を！」など
一般質問をいたしました。

市政報告01

Home: <http://kimura-ryota.net>

Blog: <http://ameblo.jp/kimura-ryota/>

きむら りょうた

木村亮太

枚方市議会議員

未来に責任・みんなの会

■会派名は未来に責任・みんなの会です。

会派とは議会の中の政党のようなもので、会派を組むことで代表質問の権利などが与えられます。会派を組む条件は、「主義主張を同じくするもの」です。特に政党の縛りなどはありません。「『未来に責任を持った政治』『しがらみのない政治』のために、まずは**行財政改革を本気で進める**」という主義主張のもと、私は右記のメンバーで会派を組むことになりました。

- 代表: 岡沢龍一議員(2期目・無所属)
- 岩本優祐議員(1期目・無所属・みんなの党推薦)
- 清水薫議員(1期目・無所属)
- 木村亮太(1期目・無所属)の4名にて会派構成いたします。

【改選后会派構成】

自由民主党議員団(3名)

日本共産党議員団(3名)

みんなの党市民会議(3名)

公明党議員団(8名)

民主クラブ(8名)

民主市民議員団(3名)

無会派(2名) ※会派に属していない

未来に責任・みんなの会(4名)

【改選前会派構成】

自由民主党議員団(3名)

日本共産党議員団(6名)

みんなの党市民会議(3名)

公明党議員団(8名)

民主連合議員団(7名)

民主市民議員団(3名)

自由民主党清和会(3名)

議会改革調査特別委員会の設立

6月議会にて議会改革調査特別委員会の立ち上げが議決され、6月29日に第1回の議会改革調査特別委員会が実施されました。私木村亮太は「未来に責任・みんなの会」を代表して同委員会の委員になりました。今後、議会の在り方を議論してまいります。

- ①コストカット、名古屋市議会や大阪府議会、大阪市区議会などである定数削減や報酬削減など
 - ②情報公開、土日議会を開く、インターネット配信、youtubeで配信するなど
 - ③議事機関としての機能の強化、本会議の運営の仕方、議会の招集権、通年議会の導入
- ①と②も大事ですが、③の部分もしっかり議論をして、枚方市のためになる議会にするにはどうすればいいのかあり方を検討してまいります。

このチラシは市政調査の目的として発行しています。
皆様のご意見をお聞かせください。

連絡先: 〒573-8666 枚方市大垣内町2丁目1番20号 枚方市役所本館4階(未来に責任・みんなの会議員控室)

☎: 070-5651-5832 E-mail: hirakata@kimura-ryota.net

未来への責任ある行財政改革へ一歩前進！ 6月議会にて初めての一般質問をいたしました

官民格差の是正を！

【私の考えと概要】
 枚方市の一般会計（1140億円）における人件費（230億円）の比率は約20%です。財政健全化のためには人件費を適正化必要があります。
 枚方市の技能労務職員の年収が、民間の類似する職種の年収ベースの比較において約1.73倍という非常に大きな格差が生じております。（表1参照）仮に民間と均衡をとるようになれば年間10億円ほどの削減効果がみられます。職員の給与は地方公務員法により、「民間事業の事業者の給与を考慮して定めなければならない」と民間均衡の原則があります。技能労務職の年収が民間と比較して格差が生じている原因は、事務職

【質問内容】
 現在行政職という給料テーブルが事務職と技能労務職とに適用されているが、仕事の性質が違っているので、分離すべきではないか？また、分離して技能労務職に適用する給料テーブルをつくるのであれば、民間の類似職種と均衡のとれたテーブルにするべきではないか？

【答弁（要旨）】
 私としては、人件費削減を達成させるためには在職している技能労務職員に対しても、何らかの形で適用をするべきと考えております。また現在作成しているテーブルが民間との均衡がとれたものなのかどうかをチェックしていく必要もあります。また技能労務職の新規採用については民間委託、民営化を進めていく

■官民の年収格差（表1）

職種	枚方市職員	民間類似職種	官民格差
清掃職員（ごみ収集等）	¥6,395,751	¥4,156,100	1.54
学校給食員	¥6,478,934	¥3,677,900	1.76
用務員	¥6,727,313	¥3,027,000	2.22
自動車運転手	¥6,023,151	¥4,278,800	1.41

官民格差は 1.73 倍！

モチベーションの上がる制度を！

【私の考えと概要】
 枚方市をより良い市にするためには、枚方市役所が今まで以上に良い組織にしていく必要があります。そのため、市職員ひとりひとりがモチベーション高く業務に取り組めるようにすべきで、頑張った人は頑張っただけ評価される組織にしていく必要があります。現在枚方市には職員の人事評価制度として総合評価制度があります。人材育成や人事異動にも活用している総合評価で、評価が高いと、給与反映があります。ただし、給与反映があるのは管理職（部長、次長、課長、係長代理クラス）のみで、係長以下の非管理職員には給与反映がありません。（表2参照）地方公務員法においては

【質問内容】
 現在は適用されていない係長以下の非管理職員にも総合評価制度における給与反映をするべきではないか？
 【答弁（要旨）】
 本格導入を見据えて、総合評価制度の構築を速やかに図っていきたい。具体的な年度はないが早期本格導入に向けて動いている。

【答弁（要旨）】
 技能労務職用の給料テーブルは現在作成中で、平成24年度には完成の予定。今後新規採用する技能労務職員については新しく作成したテーブルを適用していく。今、在職している職員に対して新しい給料テーブルを適用することは十分な検討が必要。

■評価制度の給与反映実施状況（表2）

管理職	部長クラス	平成13年度から実施
	次長クラス	平成14年度から実施
非管理職	課長クラス	平成14年度から実施
	課長代理	平成15年度から実施
係長以下	未実施	

未来を見据えた財政計画を！

【私の考えと概要】
 財政状況を健全化させていくためには、場当たりのなお金の使い方をしているはいけません。長期の財政見直しを立てて、現状認識をして、その後、どう課題や問題を解決していくかを考えていくことが重要と考えます。そこで、市有建築物保全計画に着目いたしました。
 市有建築物保全計画というのは、枚方市内にある建築物（庁舎や、生涯学習センター、学校、幼稚園、保育所）を事後保全ではなく、予防保全をする観点から、今後20年で保全費用がどれだけかかるか、またどの施設から補修、改修をしていくかの計画が策定されております。

【質問内容】
 現在増改築中の建物に費用の試算はしないのか？建て替えの費用の見積もりはしているのか？長期財政計画とのすり合わせはどうしていくのか？また、毎年20億円かかるという費用に関してはどう当局としてとらえているのか？
 【答弁（要約）】
 改築中などの建物に関してはタイミングを逸することなく保全計画に組み込んでいく。建て替えの費用も今後試算していく。次回の長期財政計画を立てるタイミングですり合わせていく。
 試算されている20億円という費用は少なくともないので、今後は市民ニーズや都市環境の変化から、見直しや建て替

【質問内容】
 計画によると、枚方市の建物の延べ床面積は約59万㎡、阪神甲子園球場の総面積の約1.5倍です。
 今後20年間の保全費用は毎年約20億円かかると試算されています。計画的に必要な費用が試算されていることはとても重要です。ただし、問題点が3つあります。1つ目は増改築中の枚方三中と市民病院の保全費用が含まれていないこと。2つ目は、保全をしていてもいざ建替えていなければならない時期もやってくるということ。3つ目は長期財政計画とすり合わせしていくべきなのですが、保全費用の一部しか今は入っていないこと。保全計画と財政計画をきちんとすり合わせ、将来を見据えるため一般質問で取り上げました。

【答弁を受けて】
 増改築中のものと、建て替えの費用も含めた保全・建て替え費用を試算した計画の策定、また、次回の長期財政の見直しを作成するタイミングで、保全計画の試算されている費用と長期財政計画とのすり合わせを要望いたしました。私も20億円という費用は決して少なくないと感じているので、今後の施設の在り方の検討をしていかなければならないと考えております。